

## 第4回共済研究会シンポジウム - 共済事業の現代的意義を考える -

代表運営委員 押尾直志  
" 本間照光

これまで3回、共済事業に対する法規制問題をテーマとしてきましたが、差し迫った問題となっていた「自主共済」の存続の可能性が「保険業法等の一部を改正する法律の一部を改正する法律」の制定によって開かれました。しかし金融庁の認可を受けるための手続きの厳しさなど、これからの問題が大きいのが現実です。また政府内では、信用・共済事業の分離による農協の解体が公然と議論されています。一連の法改定によって、各分野の共済事業は、いま変容を余儀なくされつつあります。こうした状況のなかで、あらためて共済事業の意義を明らかにし、社会的な認知を獲得しなければ、今後の展望をもつことは難しいのではないのでしょうか。

共済事業は多様ですが、それぞれ創設に当たってはその目的を高く掲げて人々の共感を獲得して組織基盤をかため、今日の到達点を築いてきました。その過程で、それぞれの組織基盤に応じて、加入者の要求を実現するとともに、その時々 of 社会的課題にも向き合ってきたはずであります。21世紀にはいって10年、私たちが暮らすこの日本では、とりわけ雇用の不安定化・失業や非正規労働の広がり、「ワーキングプア」が問題となり貧困層が増大しました。農山村の疲弊にも著しいものがあります。よく見れば、こうした問題に共済事業を通して取り組んでいる活動があることに気づきます。それぞれの歴史や現状を踏まえ、それぞれが果たしている役割を明らかにしながら、共済事業の現代的意義を考えようというのが、このシンポジウムの狙いです。

会員のみなさんのご参加とともに、周辺の人々を誘っての参加を期待しております。

主 催 共済研究会  
日 時 2011年3月5日(土) 13時~17時  
会 場 明治大学リバテータワー3F1031教室

テーマ 共済事業の現代的意義を考える

### プログラム

基調講演 「共済研究半世紀に思う」

坂井幸二郎(日本共済協会参与)

テーマ解題 押尾直志(明治大学教授)

報告とディスカッション

コーディネーター 佐藤 修(コミュニティケア活動支援センター事務局長)

パネリスト 武田俊裕(JA共済連全国本部開発部次長)

長谷川 栄(全国労働組合総連合共済会専務理事)

斎藤義孝(日本勤労者山岳連盟理事長)

河添 誠(首都圏青年ユニオン書記長、反貧困たすけあいネットワーク代表運営委員)

参加費 1,000円(会員は無料)

参加申込み 「参加申込み」として、氏名・所属を次のところに送信してください。  
佐々木憲文 E-mail: kenbun.sasaki@nifty.com

申込締切日 準備の都合がありますので2月28日までに申し込んでください。